

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

### 1 確認日

平成30年4月18日（水）

### 2 確認箇所

- ・ H2タンクエリア
- ・ H4北エリア

### 3 確認項目

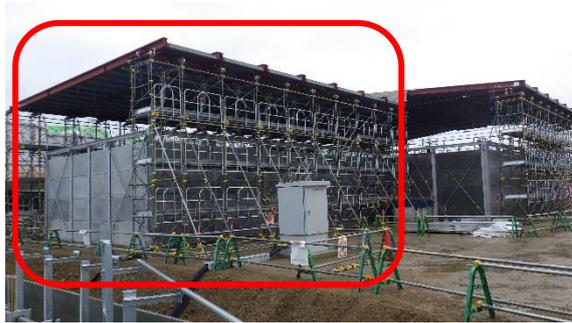
- (1) H2タンクエリア横置きブルータンクの状況
- (2) H4汚染土壌回収現場の雨水流入対策の状況

### 4 確認結果の概要

- (1) H2タンクエリア横置きブルータンクの状況について

H2タンクエリアの西側に残置されている濃縮廃液を貯留したブルータンク3基の状況を確認した。

- ・ 前回確認時（平成28年12月21日）には、2基のブルータンクが漏えい拡大防止対策としてコンクリート製の基礎及び堰が設置されたコンクリート遮へい壁内に移設され、1基はそのまま屋外保管されていた状況であったが、コンクリート遮へい壁が増設されており、残り1基も遮へい壁内に移設されていた。（写真1）
- ・ 残り1基のブルータンクは、先に移設されたブルータンク同様、堰に囲まれたコンクリート基礎上のH鋼の架台上にボルトで固定されていた。（写真2）
- ・ コンクリート遮へい壁の上部には屋根がかけられており、ブルータンクが直射日光や降雨にさらされることを防止していた。
- ・ コンクリート遮へい壁内の空間線量率は、100～数百 $\mu\text{Sv/h}$ であったが、コンクリート遮へい壁の外は数 $\mu\text{Sv/h}$ であり、コンクリート遮へい壁が機能を果たしていることが確認できた。



(写真1) 遮へい壁の外観  
赤枠で囲んだ部分が増設された箇所



(写真2) 遮へい壁内の状況

(2) H4 汚染土壌回収現場の雨水流入対策の状況について

汚染土壌回収作業が行われているH4北エリアでは、作業終了時に雨水流入対策として雨カバーを設置している。今回、現場確認時に小雨が降っていたことから、雨カバーによる雨水流入対策の状況を確認した。

- ・雨カバーは、プラスチックでできており、汚染土壌回収現場全体を覆っていた。(写真3)
- ・雨カバーには雨樋が取り付けられておらず、カバー上に降った雨水は、カバーを伝って汚染土壌回収現場を囲う鋼矢板の外側に滴り落ち、土側溝を経由して、エリア北側に排水されていた。(写真4)
- ・カバーの隙間などから雨水が滴下している場所が一部確認されたが、現場の土は乾いており、雨カバーが機能を果たしていることが確認できた。(写真5)



(写真3)



(写真4-1)



(写真4-2)



(写真5)

#### 5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、前日と比べ有意な変動は確認されなかった。